

## 平成22年度宇都宮市食育推進会議 会議記録（概要）

### ■ 日時

平成23年2月22日（火） 午後3時～4時30分

### ■ 場所

財団法人 宇都宮市医療保健事業団 4階会議室

### ■ 出席者

#### 【委員】 14名

渡辺道仁委員，小宮秀明委員，松山健一委員，直井克仁委員，岩本眞砂枝委員，渡邊敏夫委員，林敬子委員，青木孝之委員，細谷タミ子委員，亀井實委員，渡辺政行委員，鶴見充衛委員（代理），半田俊江委員，青木浩子委員

#### 【事務局】 10名

保健福祉部長，保健福祉部参事兼保健所長，保健福祉部次長兼保健所副所長，健康増進課長，健康増進課課長補佐，健康増進課健康づくりグループ係長，学校健康課学校食育グループ係長，健康増進課健康づくりグループ総括主査・主任・主事

### ■ 会議経過

#### 1 開会

#### 2 あいさつ

- ・ 小宮秀明会長
- ・ 保健福祉部長

#### 3 委員紹介

#### 4 副会長の選出

渡辺道仁委員

#### 5 議事

(1) 「(仮称) 第2次宇都宮市食育推進計画」の策定について（事務局説明）

#### 【質疑応答】

- 委員：「(仮称) 第2次宇都宮市食育推進計画」の策定における検討事項に，他県・市が実施している食育のユニークな取り組みを含めてはどうかと思う。
- 事務局：他都市の状況を調査し，紹介していきたい。
- 会長：平成21年度に宇都宮市が実施した「食育に関する意識調査」結果によると，肥満の人の割合が減っている。県レベルでは肥満が増え，女性のやせも前回の2倍になっており，体格の悪い傾向が出ているが，市は良い方向になっている。計画の中に，メタボリックシンドロームなど食を中心とした健康づくり，体づくりを盛り込んでほしい。

- 委員：各分野の目標値はいつまでに達成する目標か。
- 事務局：現行計画の目標値については、計画の最終年度である平成23年度を目標達成年度に据えている。
- 委員：中間評価の結果はどうか。来年度、調査結果等により、目標値が達成できていないものについては、課題として捉え、継続して取り組んでいくという考えか。
- 事務局：基本的には、そのような考え方で間違いない。
- 委員：食育推進の取り組みとして、パンフレット等の配布を行う場合、配布後の反響は把握していないのか。
- 事務局：現時点では、配布数しか把握していない。今後は、配布した効果がわかるように配布、分析していきたい。
- 委員：遺伝子組み換え食品、残留農薬、添加物など食品の安全安心についての関心が高まっていく中、本当に安心して食べられるのか、何が確かなのかわからない。これからも調査しながら、食の安心安全の確保に努めてほしい。
- 委員：食文化の継承と振興に関する取り組みの中で、目標値に掲げている「しもつかれ料理教室の開催数」についてだが、しもつかれを作るには、鮭の頭など入手しにくい材料もあるため、しもつかれにこだわらず、**伝統料理が日々の生活の中に取り入れられるよう**、もっと幅を持たせて、紅白なます、けんちん汁など様々な伝統料理に関する講習会の開催が必要だと思う。
- 委員：次期計画には、食を支える農が大切であるということ、食育を通じた農への理解という視点を入れてほしい。

## (2) 食育に関する意識調査について（事務局説明）

### 【質疑応答】

#### ①回収率について

- 委員：中学生・高校生は、学校を通じて調査票を配付しても、回収率が44.5%なのか。
- 事務局：これは、前回実施した調査の回収率であるため、郵送調査での回収率である。

#### ②調査対象者の抽出方法について

- 会長：調査対象者である一般市民5,000人は、ランダムに無作為で選ぶ方法はあるのか。また学校は、学校単位で選ぶのか。
- 事務局：一般市民をランダムに選ぶ方法はある。学校については、学校単位で選ぶが、地域に偏りが生じないように調整する。

#### ③調査項目について

- 委員：メタボリックシンドロームに関する調査項目が、幼児・小学生にはないようだが、幼児から肥満の児はいる。親の考え方や生活内容は子どもにうつっていく。幼児・小学生の保護者も一般市民であるため、メタボリックシンドロームに関する調査項目を加えてもよいのではないかと思う。
- 事務局：加える方向で検討していきたい。

- 会 長：一般市民用の調査票にあるメタボリックシンドロームに関する調査項目を、幼児・小学生に加え、さらに中学生・高校生にも加えるということか。
- 委 員：中学生・高校生が答えられるのかわからないが、良いことは小さい頃からやっていくほうがいいので、幼児・小学生の保護者には加えてほしい。
- 会 長：一般市民用の調査票にあるメタボリックシンドロームに関する調査項目の文言を調整して加えていけばよいと思う。
- 委 員：メタボリックシンドロームに関する調査項目を幼児・小学生に加えるのであれば、自分の体を自分でよく知るという意味でも、中学生・高校生にも加えてよいと思う。
- 委 員：幼児・小学生の調査は、保護者が答えるものであるが、「農業体験をしたことがあるか」の設問に「またやってみたいか」など子どもの気持ちを聞くことができるような子どもにも答えられる項目も入れていったらいのではないか。
- 事務局：小学生自身が答えるアンケート調査は、毎年12月に、教育委員会で、「学習と生活のアンケート」というもので実施している。
- 会 長：子どもには、料理を作ってくれる人への感謝など感謝の気持ちについて把握できる項目が入れられるといいと思う。
- 委 員：「伝統料理・郷土料理を習う機会があれば参加してみたいか」という調査項目があるが、どんな料理を教わりたいかについても聞いてみると、講習会が開催しやすくなると思う。
- 委 員：次期計画は、より多くの市民が、食育を実践できるよう、食育の取り組みを強化していくための指針という位置づけで策定していくものであると思うので、意識調査の項目は、次期計画に十分反映できるものであるとよいと思う。「食育という言葉をどの程度知っていたか」という項目があるが、「どこで食育という言葉を知ったか」についても聞くとよいと思う。調査を実施する際には、結果がどうなると思うかをよく考えて、項目を設定すると、施策に十分利用できるものがあるので、あと一歩踏み込んで考えたほうがよいと思う。
- 委 員：15ページの設問No.17-1の食の安全性に関する設問の選択肢の中に、「1有機農産物」、「10健康食品」とあるが、本来は安全なものではないか。
- 会 長：(ここでは、表示と中身が一致しているか、本当にそのものであるかどうか不安に感じるという意味の選択肢であると思うが、) 誤解を招きやすい表現なので、事務局で修正するということでよいか。

## 6 その他

- 事務局：今後の進め方については、本日の会議結果をもとに、事務局が食育に関する意識調査票を修正し、小宮会長に確認いただくこととしてよろしいか。
- 委 員：(全員了承)

## 7 閉会